Staff Blog

園長室ブログ

夏本番・甲虫展

## 夏本番・甲虫展やってます

平成23年も夏真っ盛りの季節となってきました。本来なら海に、山にといったテンションでしょうが平成23年はあの大震災、そして福島原発の影響もあり、日立の海もひっそりとしているようです。

でも動物園では、連日、夏の風物詩ミンミンゼミやアブラゼミの鳴き声がシャワーのように降り注ぎ、いつもと変わらぬ夏本番です。というわけで、夏といえば昆虫(強引)そして、平成22年に引き続き、また平成23年も開催する「カブトムシとその仲間たち展」。職員手づくりのセットに、これまた職員が寝食を削って捕まえてきた甲虫たち約30種類がズラッと展示してあります。

ただいま作業中

怪しい虫とり中年隊

作業完了、完璧

なかでもオープン展示ではカブトムシたちを手でさわれることができます。甲虫類は昆虫の中でも一番種類が多く、約100万種といわれる昆虫の約4割を占めるといわれています。知れば知るほど奥の深い昆虫たちの世界ですが、特に子供に人気なのがカブトムシやクワガタムシ。その仲間が甲虫類と言われ比較的頑丈な体になっています。かたい前翅の下に後翅が保護され飛ぶことができます。そして幼虫からサナギ、成虫へと脱皮しながらその姿を変えていく様は、そのまま成長するわれわれからすると不思議でなりません。

ミヤマクワガタ

シロスジカミキリ

このような虫たちは、人間やほかの動物のように体の中に骨（内骨格）がありません。そのかわり体表面は硬い骨格（外骨格）でおおわれています。こうして内部の臓器を保護しているのですが、これは逆にこれ以上体が大きくならないことにもなります。このため虫たちは成長段階に併せてそれまでの殻を脱ぎ捨て、新しい殻を身につけていくため脱皮という行為を獲得しました。

　この外骨格は硬タンパク質やキチン質などで構成されたものでクチクラといいます。クチクラ(cuticula)はキューティクルともいい人の毛にも含まれます。ちなみに幼虫のように柔らかそうに見えても表皮はクチクラでできています。甲虫類の多くは幼虫やサナギの時期を地面の中で過ごし、成虫になれば翅を使って飛翔を身につける、これはすべて捕食者から逃れるためにほかなりません。

ハンミョウ

昆虫は多くの動物のエサでもあります。また、虫たちも地面の中の腐食土や堆肥を食べる幼虫から、成虫になれば朽ち木や樹液を養分にするもの、そして他の昆虫を食べる肉食性のものや死骸をあさるハイエナのようなものまで実に様々です。名前もゴミムシやゾウムシはまだしも、枯れ木や朽ち木などの木を食べるのでずばりキマワリ（木まわり）や死体を食べるシデムシ（死出虫）、動物のフンに集まるマグソコガネなど決して有り難くない名前をいただいている虫たちですが、彼らがいて自然界の循環が成り立っているのです。見つけたらご苦労さん、と言ってあげて下さい。そんな甲虫類の実物を動物園でご覧下さい。

アトボシアオゴミムシ

キマワリ

夜の動物園も好評で、昨夜も多くのお客様に楽しんでいただきました。今週もまた金曜日から日曜日まで夜間開園しますのでぜひ足をお運びください。

幻想的なリスザルの島

昨日、例の北関東スタンプラリーでまたまた6園館制覇者がでました。日光からおいでの高木様のおふたり、おめでとうございます。

日光の高木さんたち

6園館のスタンプが

社団法人日本動物園水族館協会の季刊誌のウェブ版「どうぶつのくにネット」に、「震災からたちあがる動物たち」というコラムを連載していますのであわせてご覧ください。
どうぶつのくにネット（新しいウインドウが開きます）
（平成23年8月8日）

2011年8月8日